

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	物流・産業		25年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	産業の高度化・新展開・創出と広域物流拠点の形成		成果	コスト			
事務事業名	名古屋港背後地域への企業誘致		継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7835
目的	対象(誰・何を)	名古屋港利用者				事業 期間	昭和44年度～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	関係機関による名古屋港背後地域への企業誘致を支援することにより、増加を目指します。					
概要	愛知・名古屋国際ビジネスアクセスセンター(I-BAC)、愛知県産業立地推進協議会等の事業に協力するとともに、名古屋港背後地域において企業誘致を推進する自治体に対し、名古屋港のPR活動を行います。					根拠 法令等	
26年度の実施予定	I-BACの実施する外資系企業ネットワーク懇談会や、愛知県産業立地推進協議会が実施する東京セミナー等への事業協力に加え、静岡県内、長野県内、岐阜県内及び滋賀県内の企業誘致を推進する市町村に対し、名古屋港のPR活動を予定しています。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

26年度に実施した 内容・結果	I-BACの実施する外資系企業ネットワーク懇談会や、愛知県産業立地推進協議会が実施する東京セミナー、産業立地キャラバンへの事業協力に加え、静岡県内、長野県内、岐阜県内及び滋賀県内の企業誘致を推進する市町村に対し、名古屋港のPR活動を実施しました。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	239	581	453	424	
人件費	千円	872	7,534	7,576	5,327	
合計	千円	1,111	8,115	8,029	5,752	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
企業立地などを目的としたセミナー等にて名古屋港のPR活動を行った回数(回)	目標	-	-	4	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をやや下回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る	4	関係機関が実施するセミナー等に参加し、名古屋港のPR活動を行う。 ①愛知県産業立地セミナーIN東京 ②愛知県産業立地キャラバン尾張 ③愛知県産業立地キャラバン三河 ④外資系企業ネットワーク懇談会	
	実績	3	4	4				
(単年度管理型)	事業進捗状況(26年度)							
企業立地担当者訪問数(件)	目標	-	-	15	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をやや下回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る	15	名古屋港背後地域において企業誘致を推進している自治体(約60)に対し、名古屋港のPR活動を4年間で実施する。	
	実績	-	17	17				
(単年度管理型)	事業進捗状況(26年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	PR活動回数、企業立地担当者訪問数のいずれの指標も目標を達成することができました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/> 名古屋港利用者を増加させるためには、港湾管理者である本組合が主体的に、港湾情報の提供やニーズの把握を行うことが必要であり、関係機関と連携した対応の必要性は高いと考えられます。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/> 名古屋港背後地域への企業の進出は、産業の高度化等と広域物流拠点の形成に寄与するものであり、愛知県産業立地推進協議会やI-BAとの連携により、企業の進出意欲を高めるための効果的なPR活動が実施できていると考えます。						
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>						
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/> 関係機関と連携することにより、本組合単独での実施の場合と比較し、低コストで多数の来場者にPRすることができました。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性			判断理由
	成果	コスト		
継続	維持	維持		・企業誘致のため関係機関と連携し、より効率的で効果的なPR活動を検討しながら進める必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。			
課題	27年度以降の取組			
企業の進出意欲は、社会経済情勢に影響を受けるため、タイミングを逃さずに的確な情報を提供する必要があります。	引き続き関係機関と連携し、名古屋港背後圏への企業進出意欲の向上を図るとともに、企業誘致を推進する自治体等に対する名古屋港のPRや、企業進出ニーズの把握を行います。			